

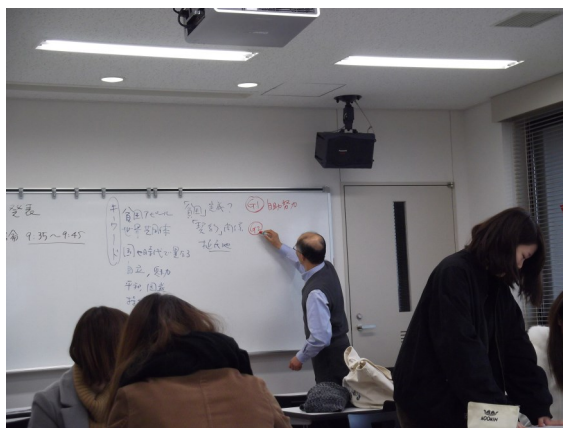
国際援助政策

担当教員： 上別府 隆男

履修年次・区分： 3年（専門－展開－共生・開発）

授業のテーマ： 日本以外の二国間機関や多国間機関（国連・国際機関）が行っている発展途上国の開発政策について学ぶ。いわゆる「ドナー」（最近では「開発パートナー」と呼ばれる）は主に先進国と国際機関が中心であったが、近年では新興国が新たなドナーとして登場してきている。本講義では、老舗ドナーと振興ドナー、二国間と多国間、ローンとグラントという異なる枠組みやアプローチを比較しながら、世界の援助政策の潮流を学ぶ。

この日の授業内容： 開発援助の「動因」の考察



学生たちは事前にテキストを読み、一人ずつまとめてから授業に臨みます。教室ではまずグループごとに話し合ってから全体に発表し、その章の「感想」と「論点」を共有していきます。他の学生の意見も聞くことで、いろいろな視点からテーマに向きあうことができ、理解が進みます。

開発援助には、国や時代により様々な要因があること、多様な利害関係の中で持続的開発のための援助を行う必要があることなどを踏まえたうえで、援助国と被援助国がWin-winの関係になるにはどんな援助をすべきか、日本の援助が商業的だと批判されているがどのような援助をするべきなのか、などについて討論しました。

(2016年1月取材)